

2023 年度 常磐大学 海外研修 報告書 — 韓国 —



大邱カトリック大学

2024 年 3 月 9 日(土) ~ 3 月 16 日(土)

2023年度海外研修（韓国）日程表

	日付		実施内容	食事	宿泊先
1	3月9日（土）	午前	成田国際空港（14：05発）7C1153便⇒金海国際空港（16：45着）	夕食 （専用バス で案内）	釜山 タワー ヒルホテル
		午後	専用バスにて移動（空港―ホテル―夕食会場―ホテル）		
2	3月10日（日）	終日	釜山市内研修（専用バスで移動・ガイド付） 9：30 ホテル発 9：40～11：10 龍頭山公園、釜山タワー 11：30～12：30 昼食（デジックパ） 13：00～14：30 甘川文化村 14：50～17：00 国際市場・B I F F 広場 17：20～18：20 夕食（カルピ） 18：40 ホテル着	朝食 （ホテル） 昼・夕食 （研修に 含む）	
3	3月11日（月）	午前	釜山市内散策 12：00 大学の送迎バスにて大邱カトリック大学へ移動 ※大邱カトリック大学学生同行	朝食 （ホテル）	大邱カトリック大学 チャムインジエ館
		午後	14：00 大邱カトリック大学ダソムマウル（寮村）到着 17：00～ 大邱カトリック大学学生との交流会 ※日本語日本文学科の全体集会を兼ねて	昼・夕食 （各自）	
4	3月12日（火）	終日	慶州（新羅古都）歴史踏査（専用バスで移動・ガイド付） 9：00 大邱カトリック大学発 9：45～10：45 古墳公園・大陵苑（天馬塚） 11：00～12：00 国立慶州博物館 12：10～13：10 昼食（サンパッ） 13：40～15：00 石窟庵 15：20～16：50 仏国寺 17：10～18：10 夕食（牛肉網焼き定食） 18：45頃 雁鴨池（夜景車窓） 20：00 大邱カトリック大学着	朝食 （各自） 昼・夕食 （研修に 含む）	
5	3月13日（水）	午前	10：00～12：00 韓国語授業	学食・売店等 で各自手配	
		午後	13：00～14：30 中央図書館ツアー 15：00～16：30 正規授業見学or参加『就職日本語特講1』		
6	3月14日（木）	午前	10：00～12：00 韓国語授業		
		午後	13：00～14：30 博物館見学 15：00～16：15 常磐大学学生発表『日本の伝統文化』		
7	3月15日（金）	終日	大邱市内文化施設見学（グループ別） ※大邱カトリック大学学生同行		
8	3月16日（土）	午前	7：00 大学の送迎バスにて金海国際空港へ移動		—
		午後	9：00 金海国際空港到着 金海国際空港（11：05発）7C1154便⇒成田国際空港（13：10着）		

2023 年度韓国研修報告書



人間科学部心理学科 3 年

1. はじめに

私が韓国研修に参加しようと思ったのは、韓国に行ってみたかったことが大きな理由である。韓国は日本から近いので、卒業してからでもいつでも行けるのではと考えていたが、海外研修の説明を聞きに行った際に、友達と行くのと学校で行くのは違う経験になると先生が仰っていた。学生時代に一度は海外に行きたかったこともあり、今回の参加を決めた。また、現地の人と話してみたい、交流してみたいと思ったのも参加した理由の一つである。

この研修を通して、怖がらず自ら話しかけ沢山の人と会話をすること、帰国後も連絡を取り合えるような友人関係を作ること为目标とした。

2. 研修の内容

最初の二日間は釜山市内で研修を実施し、龍頭山公園や釜山タワー、甘川文化村、国際市場などを訪れた。二日目の午後から最終日までは大邱カトリック大学へ移動し、大邱で研修を行った。ガイドさん同行のもと慶州を訪れ、石窟庵や仏国寺、国立慶州博物館などを見学した。また、韓国語の授業や日本語学科の正規授業に参加した。韓国語の授業では、韓国の都市の名前や数字について学んだ。日本語学科の正規授業では、日本語を学んでいる現地の学生とペアになって、敬語の学習を行った。日本の伝統文化の授業では、私たち常磐大学学生が各々決めたテーマでプレゼンテーションをした。研修の最終日には、大邱カトリック大学の学生と一緒に大邱市内を見学した。グループ別で分かれ行先を決めて、さまざまな場所を訪れ、買い物などをした。



3. 研修での気づき、学び

釜山でも大邱でも買い物をしていて、「1+1」「2+1」という表示を多く目にした。ひとつ買ったらひとつおまけ、ふたつ買ったらひとつおまけという意味で、コンビニやドラッグストアストアでよく見られる販売方法である。日本ではあまり見慣れない表示なので印象深かった。また、韓国のコンビニは小さくて狭く、基本的に駐車場がなかった。数も多く、少し歩くとすぐにコンビニが見つかった。

現地の学生はみんな優しくて温かい人が多く、ご飯など遊びに誘ってくれてとても嬉しかった。初対面の人とコミュニケーションをとることは得意な方ではないが、積極的に話しかけてくれたのでみんなのことを知ることができた。そのような積極的に行動することの大切さを現地の学生から学ぶことができた。今後また国際交流があったとき、新たな環境で出会った人と関わるようなときは、積極性を大事にしたいと思った。

4. 終わりに

研修を通して関わった全ての人が、日本のことを好きな人が多く非常に親切だった。現地の学生は日本語がとても上手で、交流の時の会話が日本語メインになってしまったため、自分の韓国語力が努力不足であったと感じた。韓国語の勉強をもっと頑張ろうとモチベーションが上がった。まだ日本語が得意ではない人と話す時は、翻訳機を使いながらではあったが自分から話しかけ楽しく会話ができた。一週間という短い期間ではあったが、釜山と大邱市内の様々な場所を訪れ、実際に現地の学生と交流ができたことは、非常に貴重な経験になったと感じた。今後は、積極的に海外に行ってみたいと思った。

韓国研修において学んだこと

人間科学部教育学科 2 年

1. はじめに

私がこの研修に参加した動機は、もともと韓国に興味を持っていたからです。インターネットで情報を集めたり、SNS で見ただけでは韓国の一部についてしか知ることができず、実際に現地に行かないとわからないことや学べないことがあると思い、この研修に参加しました。また、私は教育学科に所属しているため韓国での教育や日本の大学生と韓国の大学生の大学生活の違いなどに興味があったので違いを感じてみたいと思ったことも理由です。そして、グローバル化が進む現代において、教育現場で外国にルーツを持つ子どもたちと接する機会が必ずあると思います。この時に、現地の学生の方たちと交流することが役に立ち、良い経験になるのではないかと思います。

2. 研修内容

私がこの研修において印象深かったことは、3つあります。1つ目は、釜山と慶州の市内研修をしたことです。この研修では韓国の歴史を感じさせるものをたくさん見ることができました。2つ目は、大邱カトリック大学の学生と初めて会った交流会です。現地の学生と交流したことはとても貴重で有意義な時間でした。3つ目は、大邱カトリック大学の学生と過ごした、大邱市内文化施設見学です。現地の学生と交流してから、とても短い時間でしたが、仲良くなることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

3. 研修での体験談

1つ目の市内研修では、博物館やお寺に行ったり、甘川文化村や国際市場など、韓国の歴史的なものから現代的なものまで幅広く触れることができました。博物館では、韓国ドラマを見たことがある人ならば1度は見たことがあるような王冠や装飾品を見ることができ、本当にこのような時代があったのだと実感し、とてもわくわくしました。また、甘川文化村や国際市場では韓国の若者の流行りや雰囲気を感じることができ、博物館等の見学とは全く異なる面白さを味わいました。2つ目の現地学生との交流会では、私はとても緊張していて、韓国語もあまり話せないし、国も異なるのに話は盛り上がるのかととても不安に感じていました。しかし、現地の学生の方々は日本にとっても興味を持っていて、日本のことが大好きで積極的にたくさん話しかけてくれました。また、日本語が本当に上手な学生が多く、私も韓国語をもっと学び、勉強したいと感じ刺激をもらいました。3つ目の大邱市内文化施設見学では、現地の学生と過ごせる最後の時間だったため、寂しい気持ちを感じつつも門限ギリギリまで楽しもうという気持ちで過ごしました。どこか見学するというよりはご飯を食べたり、カフェで過ごす何気ない時間がとても楽しく、大切に感じま

した。また、現地の学生とこんなに仲良くなれるとは思っていなく、初日の不安など全く必要のないものだったと思いました。市内研修と現地の大学生と過ごした写真は以下の通りです。左の写真は、古墳公園・大陵苑（天馬塚）で撮った写真です。真ん中の写真は、大邱カトリック大学の学生と大邱市内文化施設見学でスターバックスに訪れた時の写真です。右の写真は、韓国の地下鉄に乗った写真です。



また、この研修には板垣さんという車いすで生活している学生も一緒に参加しました。私は車いすで過ごしている人が周りにいなく、何か手伝えることはないかと思いながらも最初は勇気を出すことができずに見ているだけになってしまいましたが、一緒に参加していた看護学生たちが率先して行動をしていて、私にもできることがあればと少しだけお手伝いさせていただきました。この研修では韓国の事だけでなく、手を差し伸べることの勇気を学ぶことができました。そして、板垣さんと畠山さんとも楽しく過ごすことができて本当に良かったです。

4. まとめ

この研修を通してでしか学べないことがたくさんあり、本当に海外研修に勇気を出して参加して良かったと思いました。私は1人で参加しましたが、事前研修や研修を通して、新たな友人をつくることもできました。この研修では、いろいろな刺激を受け自分の視野をひろげることもでき、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、海外研修に参加したいと思います。

海外研修報告書

海外研修 A（韓国）

人間科学部 現代社会学科 2 年



1, はじめに

私が韓国研修に参加したきっかけは、講義で韓国・朝鮮語を履修していたことである。昨年の夏に、大邱カトリック大学の学生が常磐大学訪問した際に、合同で講義を受けた。その時の私は障害を持っていて車椅子に乗っている私に偏見の目はないだろうかなどさまざまなネガティブなことを考えていた。しかし、実際の合同授業になると偏見などは一切なしに接してくれてとても有意義な時間を過ごすことができた。

元々海外に行くことには興味があったので講義を受けていたので、機会があれば大邱カトリック大学に行き、また学生たちと交流したいと強く考えるようになった。そんな時に先生からも韓国研修に行ってみないかとお誘いを受けた。最初は、自分が車椅子に乗っているからと考え断っていたが、先生が「できる限りのサポートはするし、あなたが行きたいかどうかで決めなさい」と言う言葉に背中を押されて海外研修に行くことを決心した。

2, 研修の流れ

研修で行ったことについては、主に異文化体験と大邱カトリック大学での講義である。異文化体験では韓国の料理を食べたり、釜山タワーや甘川文化村を訪れて韓国の街並みを体験的に学ぶことができた。また別の日には、古墳公園・大陵苑（天馬塚）や国立慶州博物館を訪れ韓国の歴史的な文化に触れることができた。

そして、大邱カトリック大学では実際に韓国語の授業を受講したり、日本語の講義に参加をした。さらには、韓国の学生に向けてプレゼンテーションも行い非常に有意義な研修期間を過ごすことができた。

3, 韓国研修で印象に残っていること

韓国研修で印象に残っていることは3つある。

一つ目は、釜山の海の夜景を見学しに行ったことである。なぜこの出来事が印象に残っているかと言うと、当然夜景が綺麗だったというのもあるが、それ以上に砂浜の上まで車椅子で行き間近で夜景を見れたことにとても嬉しさを覚えた。日本では、車椅子で砂浜に入ることは困難であるし、もしかすると冷ややかな視線を浴びることもあるかと思いますが、ここでは皆と同様に海の夜景を楽しむことができて非常に胸がいっぱいになった。

二つ目は、大邱カトリック大学での「就職日本語特講 1」の講義である。この講義では韓国の学生に日本語を教えたり、韓国語を教わったりというような教室活動を行った。いざ自分が教える番となったが、私とペアになった韓国人の学生と日本語で会話することが難しく、コミュニケーションがうまくはかれなかった。それでも私はジェスチャーや文字を書いたりなど様々な試行錯誤をしてコミュニケーションをとり、教えようと努力した。最終的にはその学生と仲良くなることができたので良い思い出

にはなったが、それと同時に常盤大学で韓国語を履修したにもかかわらず、それを活かしてうまくコミュニケーションが取れなかったという悔しさが残った。

三つ目は、大邱カトリック大学の学生と行った大邱市内の文化施設見学である。ここでは、グループ活動となった。買い物をしたり食事をしたり水族館などに行ったり、韓国の学生たちとこの上ない最高の思い出を作ることができた。また、移動中には私のためだけに車椅子の通路を調べ案内してくださったり、私が体験しやすいように韓国の学生が手伝ってくださったりと暖かい対応をしてくれてとても感動した。

4. まとめ

今回の韓国研修を受けて私は、海外に沢山行き海外の異文化や価値観を自分の中に取り入れて自分自身の見聞を広めたいと強く感じた。当然、海外というのは韓国も含まれている。次回行く時には、今よりは韓国語を話せるようにしていきたいと考えている。韓国に行く前は不安もあったが、韓国に行けたことでチャレンジする大切さを学び車椅子で生活することにさらなる自信が持てた。この一週間の研修は、1人の大人として大きく成長でき人生において最高の思い出ができた期間であった。



釜山の夜景



就職日本語特講1の様子



水族館の鯉

2023 年度
常磐大学 海外研修（韓国）報告書



韓国のバリアフリー設備と人々のバリアフリー意識

人間科学部 現代社会学科 2 年

1. 私が今回の海外研修に参加したきっかけは、車椅子で参加する学生に研修中の介助を頼まれたことだ。普段から車椅子を押すことや授業の準備を手伝うことはあったが、一日中介助支援を行ったことはなかったので、様々な不安があった。しかし、社会福祉士の資格を取得するために勉強をされていて、今回介助を任せてもらうことは社会福祉士を目指す身として良い経験になると思い引き受けた。また、大学で韓国語の授業も履修していたため、実際に韓国の学生と交流することで語学力を伸ばせる機会になると考えた。研修で、日本以外の国の文化を体験して知見を広めることと、障害者介助の力を上達させることを目標に研修へ向かった。これらの経緯から、この海外研修の報告書には韓国のバリアフリー設備と人々のバリアフリー意識についてまとめようと思う。

2. 韓国の市内研修

事前研修では、日程や注意事の説明の他に今回の特例で介助研修も行われた。介助研修では、実際のヘルパーさんと状況ごとに対応を考えたり、研修に参加する人への介助指導を行ったりした。その中でバスの乗降に関して、階段があることや幅が狭く周りの人が補助しにくいことが課題であった。研修の日程では、2日目から4日目、7日目にバスでの移動が多く、4日目と5日目は大学内で授業を受けることがメインだった。私はこの研修の中で、2日目の市内研修と大学のバリアフリー設備、そして韓国で過ごした中で感じた人々のバリアフリー意識について取り上げる。

2日目は釜山タワーや国際市場に訪れた。韓国は坂が多い地域が多く、釜山タワーではタワーの入り口にたどり着くまでに急で長い坂があった。研修に参加した他の学生や先生の手を借りて、安全に配慮し坂を上り下りした。タワー内部は、景色を見渡せるゾーンには入れたが、その先の展示フロアへ行く通路がとても狭い階段しかなかったため、見る事ができなかった。下りの際には、車椅子を横で支えてブレーキをかける人と車椅子の後ろの安全を確認する人に役割分担した。正直、事前に車椅子の学生がいると伝えていたのだから、もう少し行きやすい場所を選んでくれたらよかったのと思うことは多々あったが、ツアーガイドの方もバスを運転してくださった方もとても親切でやさしく、積極的に手伝ってくださり有難かった。

釜山タワーには地域猫がおり、現地の人に餌をもらっているようでとても人慣れしていた。6匹ほどいて、みんなかわいかった。特に、写真の猫は近くに寄っても逃げずに撫でさせてくれて、猫ロスだった私はとても癒された。

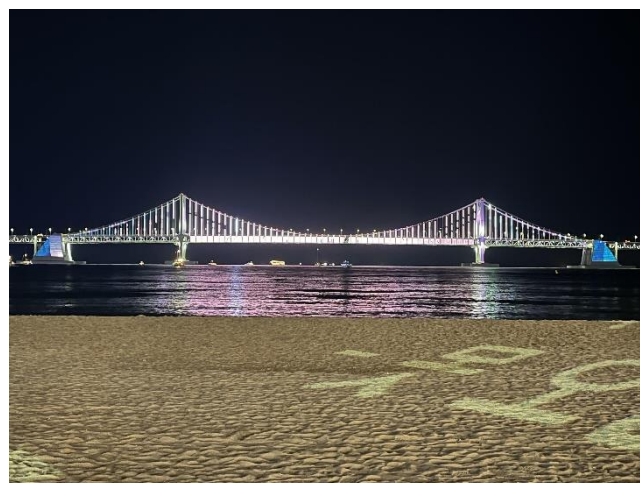


3. 大学での生活と現地学生との交流

研修期間中、最も長く滞在した大邱カトリック大学は、常磐大学よりも長い坂を上った先にあった。キャンパスには大きな博物館や VR やオーディオブックなどが自由に使える図書館などがあり、とても学生が自由にのびのびと学習できる環境が整っていると感じた。研修では、これらの建物の見学や学生との交流会、授業への参加などを行った。授業を行う建物は、事前に車椅子に乗る学生がいることを伝えてエレベーターがついている建物を選んでもらっていたようだが、聞くとところによると学内にはエレベーターがない建物もあるようだった。学生食堂へ訪れた時に、入り口に一人では乗り越えられない高さの段差がありスロープはなかった。しかし、建物から出ようとしているときに扉を開けていてくれる学生がいた。また、前述したようにこの大学は長い坂を上った先にあり、大学の正門からゲストハウスにたどり着くために 15 分ほど坂を上り続ける必要があった。夜には現地の学生や、一緒に研修に行った日本人学生とご飯を食べに行ったのだが、その行き帰りがとても大変だった。普通に上るだけでも疲れるその道を、車椅子を押しながら登っていくのでこの研修中にとっても鍛えられた。

4. 結び

韓国に滞在するなかで感じた人々のバリアフリー意識について記述する。結論から述べると、とてもフランクにそして積極的に助けを出してくれる人が多いと感じた。食事をする店の入り口に段差がありどうするか先生方と相談していた時に、近くにいた男性がすぐに声をかけてくれ、車椅子を持ち上げて店内に入る手伝いをしてくれた。エレベーターを待っているときに、先に並んで待っていた夫婦がお先にどうぞと譲ってくれた。バスガイドの女性と運転手の男性は、一緒にいる間ずっと安全の確保や補助を行ってくれた。現地の学生はここに段差があるよ、など声かけをしてくれた。研修中、ここに書ききれないほどの助けを得て、とても快適に過ごすことができた。行く前は自分が介助者として役目を全うできるか不安に思っていたが、実際に行ってみたら一緒に行った学生の助けや現地の方の助けを受けて、自分自身も楽しむことができた研修になった。初めての海外であることや一日中付き添って介助することなど、多くの初めての経験をした。これらの経験は、一生の思い出になると思う。



韓国・海外研修報告書

人間科学部現代社会学科 1 年

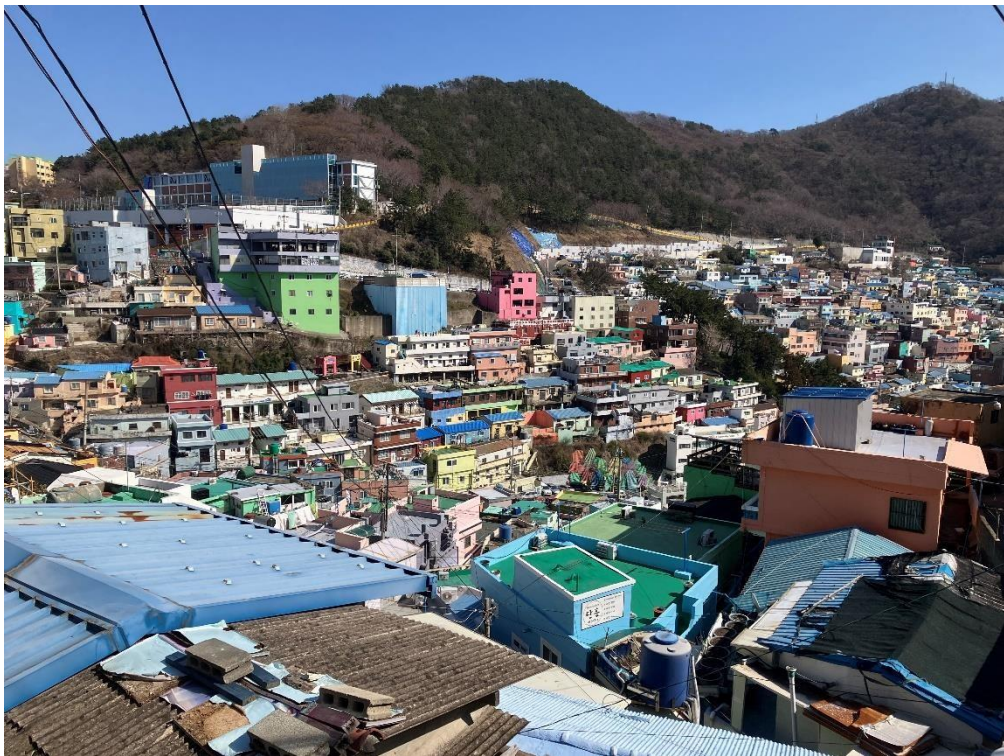
1. はじめに

私が研修に参加した理由は、自分が過去にオーストラリアに行った際に、日本との文化などの違いを実際に体験することによって、見識を広げることができ、韓国に行ってより自分の知見を広めたいと感じたからです。また、私の兄も韓国に行ったことがあり、さまざまな体験談を聞いて興味を持ち、私も韓国に行ってみたいと感じ、今回の研修に参加しました。

2. 研修の内容

研修の初日は、韓国に着いた時間が夜であったため、夕食を済ませた後に就寝しました。

2日目には、釜山タワーや甘川文化村、国際市場などの釜山の様々な観光地に訪れながら、デジクッパやスンデ（香味野菜や豚の血などを豚の腸に詰めたもの）といった韓国独自の料理を食べました。



甘川文化村の風景

3 日目は午前中に自由行動をし、午後には釜山から大邱に移動後、大邱カトリック大学の学生たちとの交流会を行いました。4 日目は大邱から慶州へ行き、午前中は韓国で発掘された冠や陶器、剣などの遺物を博物館で鑑賞しました。午後には石窟庵や仏国寺といった歴史のある施設を訪れ、韓国の歴史を学ぶことができました。



仏国寺

5 日目と6 日目は、主に韓国語の授業への参加や大学構内の施設内の見学を行い、放課後には大学周辺の店でビビンバやヤンニョムチキンなどの夕食を食べ、苺の飴やチーズハットグの食べ歩きなどをしました。

最終日である7 日目は、大邱カトリック大学の学生たちと大邱市内の観光をしました。私のいた班では、新世界と呼ばれる大きなデパートで昼食を食べ、その後は東城路（トンソンロ）と呼ばれる商店街で買い物をしました。



大邱市内の様子

3. 覚えていると役に立つこと

この章では、私が韓国での研修中に体験したことを交えながら、韓国を訪れた際に覚えていると役に立つことを2つ紹介します。

1つ目は、韓国でのお金の使い方についてです。韓国では、日本よりもキャッシュレス化が進んでおり、現金よりもスマートフォンやクレジットカードなどを使って会計を済ませることが多いです。大邱カトリック大学には、常磐大学と同じように学食やコンビニエンスストアがありますが、支払いほぼ全ての施設でクレジットカードを使いました。特に、自動販売機には現金投入口が付いておらず、クレジットカードやスマートフォンでしか支払いをすることが出来ないため、日本とのギャップを感じました。一方で、屋外にある屋台では現金しか扱っていない店もあるので、市街地を観光する際には少なくとも現金は50000ウォンほど持っていることが役に立ちます。

また、韓国には1000ウォン・5000ウォン・10000ウォン・50000ウォンの4種類の紙幣がありますが、50000ウォン札に関しては扱っている店が少なく、

使う機会がほぼ無かったため、韓国でウォンを使う場合には 10000 ウォン以下の紙幣を多く両替することをお勧めします。

2 つ目は、食事についてです。大邱カトリック大学に滞在している間は、自分で何を食べるのかを選ぶ必要があります。私が研修をしている間は、コンビニエンスストア等で食べ物を買ひ、ゲストルームで食事を済ませていました。また、学食には券売機があるので、韓国語があまり話せない私でも、店員の方に食券を渡すだけでスムーズに食べ物を買うことが出来ました。

加えて、釜山から大邱に移動する日には学生との交流会があり、それが終わった後に大邱の学生たちと夕食を食べるので、その際には現金を持ち歩いていると便利です。

4. 終わりに

もしも、いま韓国での研修をするか迷っている方は、思い切って参加してみることをお勧めします。私も研修に行く前は不安でしたが、研修中は楽しく過ごすことが出来ました。現地の方と会話する際にも、翻訳アプリなどを使ってある程度会話をする事ができるため、不安になりすぎる必要はありません。普段の生活とは全く異なる体験ができるので、ぜひ参加してみてください。



海外研修についてのレポート

人間科学部コミュニケーション学科 3 年

韓国研修についてのレポート

まず初めに、表紙の写真は、韓国に来て初めての自由行動の際にタクシーを使用して、目的地まで向かう時の景色の様子である。まるで、東京にある、レインボーブリッジのように見えたので、思い出に残った一枚だ。

次に、海外研修に参加した理由について説明する。以前から海外に行きたいという意思是強くあり、1年前から説明会に参加をしていた。その際に、先生の話の中で過去に行った人たちは、とても笑顔で帰ってきたという話を聞いて、研修はどのようなことを体験できるのか興味を持った。説明会を聞いた後も、知り合いに海外留学に参加していた友人がいたのもあり、その報告書を読んで、さらに行きたいと思ったのが理由である。

様々な国がある中で韓国に決めた理由は、私が現在卒業論文で執筆している内容が韓国カルチャーについてであるため、実際に行くことで新しい発見ができると考えたからである。

そして、今回の研修で国際交流の重要さと異国文化との交流を学ぼうと思った。

研修の流れ

研修では、釜山、慶州、大邱の各地を見学した。釜山の龍頭山公園では、映画のスターの銅像が集まっており、韓国国内における映画文化の人気度合いを知ることができた。釜山タワーでは、韓国国内の街並みを一望できた。釜山市内には、高層タワーが乱立しており、その豊かさと繁栄を窺い知ることができた。

甘川文化村では、サン＝テグジュペリが著した星の王子様の銅像や壁画がたくさんあって不思議に思ったが、調べてみると韓国においては、同作品に幼い頃から触れている人が多く、とても人気だと分かって納得した。そのため、いかにこの作品が韓国国内で、根付いているかがわかった。また、国際市場には日本のお笑い芸人で、映画監督のビートたけし(北野武)の手形が置かれていた。韓国でも、日本人の影響力を見ることができた。研修の一環として行われた韓国語による授業では、まず、韓国の文化に触れながら動画を視聴することにより、私たちが訪問した大邱周辺の観光名所について、伝統な文化を感じることができたことを知った。他にも、日本語の授業に参加して、大邱カトリック大学の学生さんと交流することができた。ある授業では、実際に日本語を勉強している学生に対して「敬語」を教えた。韓国の学生が日本が好きだからこそ、私たちが楽しく教えることができ、自由行動では、現地の学生と一緒に大邱市内の散策を行った。私たちのグループでは、新世界デパート内にある水族館に行き、その後に見学した東村路は、とても栄えており、まるで日本のような都会の街並みで熱気に溢れていた。

続けて、研修で気づいたこと・学んだこと・失敗したことについて述べる。

気づいたことは、韓国人の優しさにである。韓国の釜山市内で初めてタクシーに乗った際に、運転手の方が「ここのボタンを押すと、座席が暖かくなりますよ」と言ってくれたことに驚いた。韓国の方は早めに動く文化というのを聞いていたので、些細な気遣いが私にとって嬉しかった。他にも、夕食を食べていた所の店員さんは日本人が来たと分かったと、日本語を使用して話しかけてくれたので、とても優しい国と実感した。

学んだことは、日本と共通点が意外に少なかったことである。日本から韓国は2時間で行ける距離であり、時差もないため、共通点がそれなりにあると考えていた。しかし、いざ来てみると、韓国のご飯の食べ方ではみんなでひとつのものを食べることや、トイレトペーパーの処分の仕方や、お風呂の仕組みなど、たくさんのことが日本と異なっていた。初めは、戸惑いもあったが、最終的には、自分がこの文化に慣れていったようにも見えた。

失敗したことは、私が自由行動で一緒になっていたペアの方が、ほとんど日本語ができない人だったため、話すことを躊躇してしまったことである。しかし、その人と言葉の壁なんて気にせず、たくさん話せばよかったと後悔をした。初めは、翻訳機能のアプリを使用して、相手に対して質問をしていたが、昼食が終わるとその方は帰ってしまい、ちゃんとした別れの言葉を言えなかったのが、心残りである。

終わりに

以上で述べてきたように、今回の韓国研修では、様々なことを学ぶことができて、参加して良かったと感じた。自分が思っていたこととは異なることも多々あったが、現地の方のおかげで楽しく最終日まで安全に過ごすことができて良かった。様々な経験を、忘れずに今後活かしていきたい。

韓国研修報告書

人間科学部健康栄養学科 1 年

韓国研修報告書

私は今回1週間の韓国研修に参加しました。きっかけは、7月に常磐大学に研修に来ていた大邱カトリック大学の学生と友達になったので、次は私が韓国へ行き会いに行きたいと思ったのと、韓国の文化や食べ物が好きのため参加することを決めました。

様々な場所へ行きましたが、一番印象に残り楽しかったことは韓国の方たちとふれあう時間でした。自分で旅行に行くだけでは韓国の人と話す機会があまりないため、この韓国研修にすることで現地の学生とふれあい友達になることができ、その場の雰囲気を直接感じることもできるととても貴重な体験になりました。1週間の研修では、3月9日、10日は釜山で観光して過ごし、3月11日から15日までは大邱カトリック大学の寮で過ごし、慶州という地域へ行き観光したり、大邱カトリック大学の授業に参加したりしました。3月11日に行われた交流会では、主に1年生の方たちと趣味について話したり、なぜ日本が好きなのか、なぜ韓国が好きなのかをお互いに話し合ったりしてとても盛り上がりました。私は海外の方と親交を深める為のポイントは普段より大きくリアクションをとることと自分からたくさん質問することです。そうすることで前回韓国の学生と友達になることができたので、今回もそれを活かして短期間で距離を縮めることができたと思います。交流会の後は焼肉としゃぶしゃぶに分かれて夕飯を食べに行きました。大学を出るとすぐに商店街が広がっていて、現地の学生に聞いたところ、韓国では大学のすぐ近くに商店街があるところが多いと聞き、常磐大学の周辺もこうなったらいいのに！と思いながら、その光景に感激しました。私は焼肉の方へ参加しました。本場韓国の焼肉はあまり日本では見ない部位のお肉がたくさんあり、私はコプチャンと呼ばれる小腸部位のものと、タッパルと呼ばれる鶏の足をぶつ切りにし唐辛子ベースの調味料で味付けしたものです。どちらも美味しかったです、タッパルは唇についただけでヒリヒリし食べるのに苦労しました…（画像① 焼肉の写真）

3/13は正規授業に参加し、内容は就職日本語の授業でした。指定されたシチュエーションがあり、その場面にふさわしい会話を作ったり、聞こえてきた日本語を日本語に文字で書き起こしたりしました。日本人でも難しい敬語を正しく使えていたり、スラスラと日本語を書き、漢字も書いたりしている姿に驚きました。自分も正しい敬語を教えることができているのかが不安でしたが、ペアの学生さんと協力し楽しく授業ができました。私たちが韓国語を教えてもらう時間もあり、私はほんとに少し単語を知っていたり、韓国語を読めたりする程度なので、日本語の文章を韓国語に直して発音するのはとても難しかったです。韓国の学生がこんなにも日本語を頑張っている姿を目の当たりにして刺激を受け、これからもっと韓国語を勉強しようというモチベーションに繋がったと思います。今回の研修中は現地の学生と日本語でしか会話できませんでしたが、次韓国に行く際は、旅行で困らないような語学力を身につけたいと思いました。

授業の後は、自由時間だったので前友達になった韓国の友人2人とそれぞれ2日間にわたって夕飯を食べに行きました。1人目の友達とは、バスと地下鉄を使い東城路という繁華街へ行きました。まず驚いたのは、値段です。バスと地下鉄どちらもどんなに□い距離でも短い距離でも値段がかわらないという

ことです。バスは 1500₩、地下鉄は 1700₩で乗ることができました。オシャレなお店で夕食を食べ（画像②）、そのあと買い物をしました。韓国語を読めても何がどんなものなのかわからなかったため、韓国の友人と買い物ができたのはとても心強かったです。久しぶりに会い会話を楽しんだり、欲しかったものをたくさん買ったりでき楽しい時間を過ごせました。2人目の友達とは、大学の目の前にある商店街にいき夕食を食べました。おすすめの韓国料理を教えてもらい食べに行きました。チムタクという、鶏肉、じゃがいも、タンミョンという韓国の春雨などが入っている醤油と砂糖ベースの料理でした。私は初めてこの料理を知りましたが、本当においしくて新しい発見ができました。（画像③）その後、韓国のかき氷を食べました。大きいサイズなのでシェアするのが主流なようで、友人とシェアして食べました。現地の人が知っている美味しいごはんを教えてもらい楽しい時間を友人と過ごせて嬉しかったです。

この研修で貴重な体験をたくさんすることができました。現地の人とたくさん交流したり、日本語を流暢に使っている現地の学生の姿に驚いたり、韓国の友人と会うことができ、とても楽しく、刺激をたくさん受けました。特に食文化の面では学科に共通することもあり直に味わうことができいい経験になりました。この経験を活かしこれからの学校生活も励んでいきます。



画像①



画像③



画像②

海外研修 in 韓国

総合政策学部 経営学科 1 年

1. 序論

私が今回の韓国研修に参加しようと思ったきっかけは、韓国語の授業を履修していたことでした。もともと韓国の興味があったのでこの授業を履修していましたが、学んでいくうちにこれを活かせる場がないだろう



図1 釜山のシンボル

かと考えていました。そんな時にこの海外研修の話しを耳にし、ぜひ行ってみたいと思い参加しました。さらにこの研修を通して他学年、他学科、他国の方との交流を持ち、自分の視野を広げるきっかけになるとも思っていました。この研修には車いすの方もいて、私は車いすの方と一緒に海外に行くことはもちろん、何かをするというのも初めてでした。でもこれをきっかけに車いすの方の介助の仕方を学び、今後に繋げるきっかけになればと思いました。

2. 初めてのことばかりの1週間

私は海外に行くことが初めてでした。そのために飛行機に乗る前にパスポートを見せたり、いろいろな検査をしたりする出入国手続きというのも初めてでした。この研修では釜山と大邱に行き、最初

の 2 日間は釜山タワーや甘川文化村など釜山の有名な観光地に行きました。そして 3 日目からは大邱に移動し、大邱カトリック大学の学生と一緒に授業をしたり、慶州で古墳公園や博物館に行ったりして韓国の歴史について学びました。大邱カトリック大学の日本語日本文学科の方たちは日本語の



図2 釜山タワーと李舜臣の銅像

能力がとても高く普通に日本語で会話できることに驚きました。

3. 多くの経験

今回の研修を通して学んだことや初めて知ったことがとても多かったです。1 つ目は、韓国と日本の食事マナーです。韓国では日本のように食器を手にもって食べません。さらにおかずはお箸で、ご飯や汁物はスプーンで食べることが普通だそうです。おかずも一人ひとりに取り分けしてあるわけではなく、自分で食べたいものを大皿からとっていくスタイルでした。だから他の人と共有するのが苦手な人には向かない文化かもしれません。2 つ目はコンビニに 1+1 や 2+1 という制度があることです。この制度は日本では見たことがありませんでした。どんな制度かというと 1 つ買うと対象商品が

一つ無料でもらえるということです。私は韓国に行く前にこの制度について調べてから行ったのでこの制度に対して困惑することはありませんでしたが、日本にはないことなので本当に 2 つレジにもっていけば 1 つ分の値段で 2 つもらえるのか正直半信半疑でレジに行っていました。でもこの制度はとてもお得感があっていいなと思いました。3 つ目は、今の韓国では日本のアニメや漫画、音楽が人気なことが分かりました。大邱カトリック大学に行った初日に日本語日本文学科の学生と交流をしましたが、その時になぜ日本語や日本について学ぼうと思ったのかを聞くとほとんどの人が日本のアニメを見たことや、JPOP を聞いているうちに日本の音楽の魅力に気づき日本語を学びたくなったという意見が多かったです。きっと私たちよりも日本のアニメや音楽に詳しいのではないかというくらいいろいろなものを知っていました。

4. 結論

このように今回の研修では新しいことをたくさん学ぶことができました。研修というのは旅行とは違って現地の学校に行くことができ、博物館などでガイドさんから詳しい説明を聞くこともできるの

でとてもいい機会でした。日本とは違う文化や街並みを自分の身体や目で感じ、自分の視野を広げることができたのではないかと思います。今回の研修で学んだことや感じたことを今後の授業や将来の職業を考えるときに活かしていけたらいいなと思います。



図3 現地の学生との集合写真

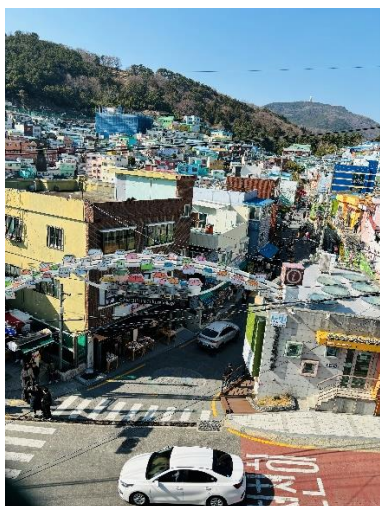
韓国研修

総合政策学部 経営学科 1年



私が韓国研修に行こうと思ったきっかけは、韓国の音楽や食べ物が好きだったことと、海外研修のお知らせを聞いて、友達に誘われて説明会に行きこの研修に参加したいと思ったからです。また、研修を通して挑戦したいことは、授業で韓国語を取っていたから、学生と交流するときや買い物をするときにも韓国語を使って会話をすることだと思いました。

韓国で研修したことは、釜山と慶州について研修を行いました。最初に行った釜山では、韓国を代表するリゾート地として有名で、大規模なニュータウンを擁する郊外地区である海雲台(ヘウンデ)に行きました。そこではものすごく高いビルを見ることができ、近未来を感じることが出来ました。また、釜山で有名な釜山タワーを昇り展望台から釜山の街を見渡しました。甘川文化村に行き、釜山のマチュピチュといわれる、カラフルな家々が斜面にずらーっと並んでいる景色を見てきました。その現在の有名なスポットといわれている「星の王子様」の銅像や、家の壁に描かれている壁画も見ることが出来ました。別の日には慶州に行き、そこを代表する遺跡のひとつである大陵苑(テルンウォン)に行きました。その中にある天馬塚の中を見学することが出来ました。中には新羅金冠をつけたまま埋葬された人が発見されたものが展示されていたり、馬の装飾も飾られていたり、金冠の装飾を細かく見ることが出来ました。国立慶州博物館にも行きました。新羅歴史を感じられるフロアでは、装飾されている土器や埴輪、天馬塚の金冠も見ることが出来ました。また、ここでしか見られない「人面文軒丸瓦」も見ることが出来ました。美術館では仏教の如来像や当時使っていた道具なども見ることが出来ました。



研修を通して学んだことは、釜山・慶州の文化や歴史、その町の有名な場所に行き、見るものすべてが新鮮に感じ、韓国の歴史についても少しではあるけれど学ぶことが出来ました。気づいたことは、国や街でそれぞれの歴史があり、歴史を学べる場所や美術館・博物館で実際に見たり話を聞いたりすることが出来るところが日本と同じなんだなと思いました。印象深かったことはカードの利用する頻度が高かったことです。日本でもカード決済やアプリでの決済が進んでいますが、日本に比べるとカード決済が当たり前の感じがしました。韓国の学生の方とごはんを食べに行ったとき、日本では現金で出せる値段でもカードを出して払ってくれたことがありました。カードで払ってくれた子に一人当たりの金額を出すのは当たり前で、日本でもやっている人は多いかもしれませんが、韓国の学生はアプリで金額を入力して払っていたことが自分にとって印象的でした。

今回の研修を通して、韓国の歴史について知ったり、自分が知らなかった文化や食べ物があったり街に行ったりして、たくさんの経験をすることができて、良い機会になりました。また、やり遂げたいこととして、韓国語で会話してみることがあげていましたが、カタコトではあるけれど知っている単語を並べて少し話すことはできたかなと思います。韓国の学生の子たちが日本語で会話することがすごく上手だったので、学生の子たちみたいにテンポよく会話できるくらいまで勉強を頑張りたいと思いました。

韓国研修



総合政策学部法律行政学科 1 年

1.はじめに

私が韓国研修に参加したきっかけは、同じ学部学科の友人にこの研修と一緒に行かないかと誘われたからだ。私は「お金は多少かかるが、1週間海外研修するだけで2単位貰えて就職活動で強く出られる」という友人の言葉に惹かれ、韓国研修に参加しただけだったが、それ以上の成果が得られ。また、初めての海外だったので、研修を通して韓国が日本とどう違うのか実際に見たり、肌で感じたりしたいと思った。

2.どのような研修をしたのか

韓国研修では、韓国の釜山市と大邱市で滞在し研修をした。釜山市では釜山タワー、甘川文化村、国際市場などの観光名所に行ったり、地下鉄で市内を散策したりした。大邱市では、大邱カトリック大学の学生と交流したり、歴史踏査をしたり、大邱カトリック大学の図書館や博物館を見学したりした。最終日には、大邱カトリック大学の学生と一緒に大邱市を回り、大邱市についてより深く知ることができた。私は韓国研修をして多くの韓国と日本の違いを感じることもできた。

3.韓国と日本の違いと印象に残ったこと

まず、韓国に来て最初に日本と違うと気づいた点は、下にある写真で分かるように、道路が右側通行だったことだ。世界では右側通行の国が多いと知っていたので、実際に右側通行を目にして、そこが日本ではないことを改めて実感した。



そして、食の文化が日本と異なっていて興味深かった。お店でご飯を食べる時、下にあるプルコギを食べた時の写真で分かるように、量と品数が多く、食べきれないほどだった。その理由を調べてみると、韓国の料理の多さはゲストに対するおもてなしの表れで、出された料理は少し残すのがマナーということが分かり、出された料理を残さず食べきった方

が礼儀良いとされる日本とは真逆で興味深いと思った。また、お箸を使うときはおかずを食べる時だけで、ご飯や汁を食べる時はスプーンを使うことやお椀を持ち上げて食べないことなどのマナーを知ることができた。



私は韓国研修のプログラムの中で、大邱カトリック大学の図書館が一番印象に残った。大邱カトリック大学の図書館は、本だけでなく、3D プリンター、VR を体験することができる部屋、テレビなどを楽しむことができる個室、近代のフランスをモチーフにした部屋、動画撮影部屋、音楽を楽しむことができる部屋、パソコンを使うことができる部屋、勉強スペースなどインスピレーションが刺激されるような場所がたくさんあってとても興奮した。常磐大学にもいつかこのような空間ができればいいなと思った。

4.終わりに

今回の韓国研修に参加して、食の文化や生活の仕方など、日本と違う部分をたくさん発見したり、体感したりすることができた。また、私が想像する韓国のイメージと重なっている部分や逆にイメージからかけ離れている部分を知ることができて、とても貴重な体験になったと感じた。今後、ほかの国に行く機会があったら、日本と比較するのではなく韓国とも比較してみたいと思った。また、この研修を通して、韓国のことをさらにもっと知りたいと思ったので、来年度は韓国語の授業を取りたい。そして、次に韓国へ行くときは、韓国語をうまく喋れるようになってから、韓国へ行って楽しみたい。

2023 年度海外研修報告書（韓国）



総合政策学部 法律行政学科 1 年

1. はじめに

私はこの韓国研修に参加することで日本との食事の文化の違いや生活習慣の違いを体験することで、異文化理解が深まり自分の知見が広がるのではないかと考えていました。また、今回の研修で 初対面の外国人と行動することでコミュニケーション能力の向上が出来るのではないかとということ、それに加えて、日本語が通じない環境に身を置くことで試行錯誤せざるを得ない状況下にし、飛躍的に自己成長が出来るのではないかが出来るのではないかと考え、この研修に参加しました。

2. 「研修の大まかな日程」

今回の研修は 2023 年 3 月 9 日（土）から 2023 年 3 月 16 日（土）までの 1 週間にかけて行われました。

まず、3 月 9 日は飛行機に乗って韓国に向かいました。私は初めて飛行機に乗ったので耳抜きにあまり慣れておらず、到着後もしばらく耳が痛かったです。

3 月 10 日と 3 月 11 日の 2 日間は釜山市内の散策をしました。10 日は甘村文化村や釜山タワー、国際市場などを訪れ、見学をしました。また、11 日は韓国の鉄道に乗って、釜山大学まで行った後に一度ホテルに戻ってきてから、バスで 2 時間程度かかる大邱カトリック大学まで移動するといったハードスケジュールでした。

3 月 12 日は世界遺産である石窟庵と仏国寺の見学をしました。世界史の教科書に載っていたお寺だったのでとても興奮しました。



仏国寺での写真

3月13日と3月14日は大邱カトリック大学で韓国語の授業を受けました。日本語を使わずに韓国語を学ぶ授業だったのですが、授業内容はそこまで難しいわけではなく、干支を韓国語で言ってみたり、韓国の観光スポットを教えてくれる楽しい授業でした。また、韓国語の授業の他にも原理の学生の就職日本語特講という授業に日本語の講師として参加したり、日本の文化についてプレゼン発表するといったことをしました。さらに、大学内にある図書館や博物館の見学もさせてもらいました。下記の写真のようなVR機器といった機器を扱える部屋や動画を撮影、編集できる部屋など先進的な設備が図書館内にはたくさんありました。



図書館内にあるVR機器などを扱える部屋
学生は自由に機器を使えるそう

3月15日は現地の学生と大邱市内を散策し、文化施設の見学をしました。現地の学生と韓国のゲームセンターに行ったり、韓国で人気のスイーツを食べたり、お買い物をしたりとかなり自由に行動して、若者文化の体験をしました。1日中歩き回ったのでとても疲れましたが、韓国に来てから高カロリーな食事が続いていたのでちょうど良かったのかもしれないと思いました。

3月16日はいよいよ帰国なのですが、キャリーケースの重さが15kgを少し超えることが空港の預け入れをする直前に判明して、急遽手荷物のリュックに衣類を詰め込むといったトラブルのようなものが起こり焦りました。この報告書を見た後に海外研修に行く人がもし居たら調子に乗ってお土産を買いすぎないことをおすすめします。

3. 研修中の体験

①「韓国での食事」

・キムチについて

韓国の食事は、ほぼ全てのお店で付け合わせとしてキムチが提供されました。日本ではキムチは別料金で提供されることが多いと思うのですが、韓国では無料でサービスされていました。また、韓国のキムチは日本のキムチよりも辛さが長い時間口に残る印象を受けました。

・現地学生が一番おすすめと教えてくれた飲み物「チョコえもん」

日本で知らない人はいないであろう超有名キャラクター「ドラえもん」がパッケージに書かれている飲み物。私が現地学生数人と食事に行った際に「韓国で一番人気の飲み物はなんですか？」といった質問に対し、その場にいた現地学生が口をそろえてこの「チョコえもん」をおすすめしてくれました。韓国ではとてもポピュラーな飲み物だそうで、韓国ではコンビニなど様々なところで販売されていました。

現地学生はとても甘いので頑張った時のご褒美や、疲れた時などに飲んだりすることが多いそうです。このチョコえもん、肝心の味はミルクチョコレートをココアに入れたような味で非常に甘かったです。ちなみに、画像からも確認できるのですがこのチョコえもん、190mlで185kcalと結構高めのカロリーでした。



韓国で人気の「チョコえもん」

②「研修中不安だったこと・失敗だったこと」

研修前半までは食事は用意されていたのですが、後半からは現地学生と食べに行ったりして各自で調達するといった形式だったので、研修が始まる前は「言葉が通じなかったらどうしよう」、「そもそも現地の学生と仲良くなれるのだろうか」と少し不安になっていました。しかし、いざ始まってしまえばそのような不安は無くなり、現地学生とのコミュニケーションも想像以上に円滑に進み、言葉や意図が通じなかった時はジェスチャーを用いる事で乗り切ることが出来ました。またこの他にも韓国では現金はあまり使わないとされているのですが、1000 ウォン札だけはたくさん持っていた方が良いです。鉄道もバスも屋台も割り勘する時も 1000 ウォン札ばかり使います。10000 ウォン札ですら「多すぎるよ!」と現地学生に言われてしまいました。なので、空港についたらなるべく細かくに両替した方が良いと思いました。

③「日本とは異なる交通事情」

韓国の交通事情は日本と大きく異なっていました。日本では車は左側通行が原則ですが、韓国はなんと右側通行でした。韓国についてからしばらくの間は違和感が凄かったです。また、韓国は信号のない横断歩道がかなり多かったです。信号が無い場合、交通量を見計らって歩行者は強気で横断歩道に突っ込んで行く必要があります。

4. まとめ

この研修では世界遺産の石窟庵、仏国寺の見学や釜山市内、大邱市内の散策に加え、大邱カトリック大学での生活を主に行いました。私は今回の韓国研修で大邱カトリック大学の先進的な設備や日本では見たことや聞いたことのない食べ物や文化に多く触れることが出来ました。また、言葉も文化も違う学生と生活を共にしたため、これまでの外交的ではない性格だった私からは想像もつかないくらいコミュニケーションが取れるようになり、積極的な性格になったと感じました。私は今後、この経験の活かし、幅広い視点から物事を考えられる積極的に行動できる人間になりたいと思いました。

海外研修 報告書

総合政策学部総合政策学科 2 年

はじめに

今回初めて、韓国の海外研修のプログラムに参加しました。この海外研修のプログラムに参加した理由としては、もともと K-POP に興味があったため、今年度韓国語の授業を履修していました。1 年間韓国語の勉強をしていく中で、実際に現地に行って会話をしてみたいと思ったからです。また韓国語の授業の際に、DCU 学生との交流をする機会があり、仲良くなった学生がいたのでその子に会いに行きたかったからです。実際にその子に会って話すこともできました。

DCU 学生との交流について

今回の海外研修では、DCU 学生と交流する機会が多くありました。まず初めに日本文化学科の学生と交流会を行いました。交流会では日本のお菓子と韓国のお菓子を交換を行い、お互いの自己紹介や好きなアニメ、アーティストの話をして盛り上がりました。ほとんどの学生が日本のアニメが好きと言っていたので国を超えても人気が高いアニメの凄さを実感しました。また、この交流会で 10 人以上の子と連絡先を交換したり友達になれたりしました。DCU 学生が友好的だったため人見知りの私でもすぐに仲良くなることができました。

また、交流会で仲良くなった DCU 学生とご飯に行ったり、カラオケに行ったりもしました。実際に現地で生活している DCU 学生は何も知らない私たちからするととても頼りになる存在で、美味しい焼肉屋やカフェに連れてってもらいました。DCU 学生とはお互いの出身地や方言、文化の違いについて話しました。また、日本の流行語を教えたらとても気に入ってもらえたので嬉しかったです。

また最終日は常磐学生と DCU 学生でのグループ別行動でした。私達のグループは、新世界デパートと東城に行きました。

新世界デパートにはブランドのお店だけでなく映画館やフードコートなどがあり、1 日遊んでも回りきれないくらい大きかったです。私達はお店を回った後にアクアリウムに行きました。アクアリウムでは魚だけではなく鳥やうさぎなど様々な動物がいたり、照明や装飾に工夫が施されていたりしたので見ていて楽しいアクアリウムでした。夕方からは東城に行き、買い物を楽しみました。DCU 学生がおすすめの洋服屋に行き、韓国の流行ファッションを見ることができました。

DCU 学生との交流は主に日本語で行っていましたが、韓国語を教えてもらったりアプリを使用して日本語を教えたりしました。お互いに母国語が違うということを忘れるくらい話をするのが本当に楽しく、お別れするのが寂しかったです。今でも DCU 学生とは連絡をとっているの、韓国に行った時や日本に来てくれた時はまた会いたいと思っています。

食事について

もともと韓国料理が好きなので楽しむことができました。しかし日本と韓国では辛さのレベルが違うため、毎回の食事に辛い食べ物があり驚きました。特に印象的に残っている食事

は骨付き牛カルビです。初めて骨が付いているお肉を食べたので焼き方や食べ方が分からなかったのですが、店主の方が教えてくれたため美味しく食べることができました。

まとめ

1 週間のプログラムは本当にあっという間でとても充実した時間を過ごすことができました。現地の学生と仲良くなれるか不安でしたが、連絡を取り合うくらい仲良くなれたのが本当に嬉しかったです。韓国語はまだまだ勉強不足なので少しずつ勉強していこうと思います。

2023 年度

韓国研修報告書



看護学部看護学科

研修期間：3月9日～16日

1. はじめに

私が今回の韓国研修に参加しようと考えたきっかけは、1年生の春semesterで韓国語の授業を履修したことである。元々、韓国が好きだったことから韓国語を話せるようになりたいと思い履修し、韓国研修について興味を持った。この先、韓国へ旅行に行くことはできても、実際に現地の大学で授業を受けたり、学生と交流できる機会はないと思い参加しようとした。私は、今回の韓国研修に参加するにあたり、3つの目標を立てた。1つ目は、「韓国人の友達を作る」。2つ目は、「韓国語を使って注文をする」。3つ目は、「韓国の伝統的な料理を食べる」である。

2. 研修内容

今回の韓国研修は、釜山市内、大邱市内で行った。釜山では、市内研修で観光地を巡ったり、韓国の伝統的な料理を食べることができた。写真1は、市内でテジクッパを初めて食べた時の写真である。大邱市内での研修では、韓国の歴史的な文化に触れ、日本と似ている点や異なる点を見つけることができた。大邱カトリック大学では、実際に授業に参加したり、プレゼンテーションを通して現地の学生と交流した。大邱カトリック大学学生との交流会では、自己紹介やお菓子交換を通して、コミュニケーションを取り、最終日の大邱市内文化施設見学に向けて交流を深めた。交流会後も仲良くなった学生と夜ご飯を食べに行ったり、一緒にショッピングへ行き、たくさ

んの思い出を作ることができた。



写真1 釜山でテジクッパを食べた時

3. 学んだこと

今回の韓国研修を通して、日本と韓国の文化の違いや似ている文化、公共交通機関の乗り方など様々なことに触れ、学びを深めることができた。特に驚いた点は、トイレットペーパーをトイレに流してはいけない場所が多かったことだ。日本では当たり前なことでも海外へと視野を広げれば様々な文化があると気づくことができた。また、食事マナーも異なる点が多く、「箸やスプーンは縦に並べる」「食器を持ち上げて食べない」など新しい文化に触れることができてとても面白いと感じた。最終日に

は、大邱の繁華街である東城路へショッピングに行った。同じグループの韓国の大学生に、よく使う韓国語を教えて貰いながら、自分で買い物をすることができて、とても嬉しかった。写真2は、韓国のスターバックスで韓国人の大学生に韓国語を教えて貰いながら実際に注文した時のものである。メニュー表を見て、注文したいものを読むことはできてでも外来語の発音が難しく、自分の発音だと伝わらないことが多かった。また、現地の方が話すスピードはとても速く感じ、聞き取ることも難しいと感じた。注文の時には、韓国人の学生に隣についてもらい、注文の方法を教えて貰いながら注文した。その甲斐があって、その後は、日本人の友達だけでコンビニや屋台で買い物をすることができた。写真3が屋台で注文している様子である。しかし、韓国人の学生との交流を深めていく中で、自分の言いたいことを伝えることができて、韓国人学生同士の会話が理解出来ないことがとても悔しかった。大邱市内文化施設の見学では、韓国人同士での会話を、日本語が得意な韓国人学生が翻訳してくれたおかげで、会話を理解することができたが、翻訳なしでもある程度コミュニケーションが取れるようにもっと韓国語の勉強をしたいと思った。



写真 3

写真 2

4. まとめ

私は、今回の韓国研修を通して、3つの目標を達成することができたことから、より韓国が好きになった。また、新しい友達を作ることができ、何よりこれからもっと韓国語を学んで韓国語でコミュニケーションを取れるようになりたいという気持ちが強くなった。研修を通して、観光地を巡ったり、韓国の歴史に触れることができたこと、何より現地の学生と交流できたことがとても楽しかった。次に韓国で出会った友達に会う時まで、もっと韓国語を勉強して

いきたい。以上に述べたように、韓国研修を通して、これまでにできなかった貴重な経験ができ、自分の成長へと繋げることができた。

韓国研修を通しての学び



看護学部看護学科 2 年

はじめに

私は KPOP が好きで普段から韓国の曲を聴いたり、韓国のアーティストのコンサートに行ったり韓国に興味があったため、韓国研修に参加しようと思った。きっかけは自分の好きなアーティストに少しでも近づきたいという思いだった。そして、韓国研修を通して韓国語、韓国の文化の理解を深め、買い物などの日常会話ができるようになりたいということを目指があった。また、私は将来看護師になりたいと考えているため、宗教的な面なども学び、多文化を理解できる、韓国語が理解できる看護師へ繋がりたいと考えていた。

1 研修で学んだこと

私は韓国研修で、まず韓国は日本ほどバリアフリーに対応していないということに驚いた。飲食店やバスなどでスロープがないところが多くあった。今回の研修で車椅子の学生がいたため、介助などを通して普段よりもバリアフリーを意識していたのもあると思うが、車椅子などの配慮が必要な方が海外へ行くことがどれだけ大変かを知ることができた。さらに、韓国研修を通して1番実感したことは、日本人同士でも看護学生と一般の学生、教師間ですら配慮が必要な人への理解に大きな差があったことだ。看護の海外研修では医療や看護について興味のある人が集まるのでこういった日常生活をする中での周りの人たちとの障害は学べなかったと思う。

また、韓国での買い物や韓国の学生達と交流をする中で言葉の壁があるため、初めは不安だった。しかし、ジェスチャーや簡単な英語を使い、一生懸命伝えたと相手も一生懸命に理解しようとしてくれたので言葉が通じにくいときもあるが、勇気を出して伝えることが大切であると学んだ。私は普段あまり自分から人に話しかけたり、友達を作ったりしない方だが、韓国研修では積極的に行動できるようになり、韓国の友達もたくさんできた。

3、研修での驚きや学生との交流の感想、気づき

韓国ではバリアフリーに対応している場所が少なく、車椅子の介助ではバスと車椅子間の移乗が1日の中で本人も介助者側もとても身体の負担になる。バスから降りる場所が段差であったり、道も狭く、信号もあまりないため、普通の人でも危ない場面が多くあった。研修を通して印象深かった介助者、看護学生と一般の生徒、先生との知識、理解の差もここでとても感じた。事前研修でヘルパーさんと本人の希望や個別性のある介助方法などの共有があったが、実際研修に行ってみると事前研修を踏まえて動ける人は少なかった。特に驚いたことは、介助する際にセクハラに見えると感じる人もいたことだった。海外に行ったからではなく、ベテランの人に助けを求められないなか生活することの怖さ、大変さを学んだ韓国研修だった。

韓国の学生と交流する際に驚いたのは、日本語学科の学生の日本語力はもちろん、学食や売店、警備員の人もある程度日本語ができる人が多かったことだ。韓国語が理解できなかった際に、日本人と分かった時点で日本語で説明してくれた。親切な人ばかりで感動した。また、韓国に行くと気づいたのは宗教に入っている人が日本より多く、どこに行っても教会があった。バスのガイドさんもカトリックを信仰していた。さらに、日本と違って韓国のお寺はカラフルでお坊さんは結婚してはいけないなど厳しい決まりがあるというような文化的な学びも多くあった。

4 終わりに

初めての海外で、大邱カトリック大学の学生達と交流し、ほとんどのことが初めての体験であったため緊張、不安が多かったが、韓国の人たちがとても優しく、快く迎え入れてくれたお陰でとても楽しく有意義な研修になった。韓国の友人もたくさん作ることができ、中にはこれから常磐大学に来ることが決まっている生徒もいたため、今度は私がもっと韓国語を勉強して日本を案内できるようになりたいと思った。また、普段の大学生活では、看護学部ではなかなか他学部の学生と交流する機会がなかったため、日本の他学部の友人も作ることができた。そして、1週間という短い期間だったけれど、韓国の文化遺産、学校、観光名所、街中などのたくさんの場所を周り、異文化に触れてみて、視野が広く、グローバルな看護師に繋がる1つのステップアップができた気がする。韓国に限らず、他の国にも今後行ってみたいと思った。



↑バスに移乗する際の様子



↑仏国寺のカラフルな蓮灯

海外研修で学んだこと

1.初めに

海外研修に参加したきっかけは友人に誘われたことです。初めは、費用の問題などありましたが、両親を説得して参加する許可をもらいました。海外に行ける機会が今後あったとしても数回しかなく、大学の友達といける機会はあまりないと思いました。海外研修に行って経験を増やし、視野を広げたいと考えて海外研修に臨みました。

2. 海外研修の流れと学んだこと 海外研修の流れとして、初日は空港からホテルまで移動し、ホテル近くで夕食を食べて、近くのお店を見て回ったりしました。韓国で初めてのお会計は、ホテル近くにコンビニエンスストアで経験しましたが、店員の言葉をうまく聞き取れなかったりして、アイスを買ったのにスプーンをもらい忘れてしまうなどのエピソードがありました。日を重ねるごとに会計もスムーズに行えるようになりましたが、その時は失敗したと少し凹みました。今となっては良い経験であったと思いました。

2日目は、ガイドさんが同行しての釜山市内研修でした。海外研修では、ガイドさんに日本語で韓国の歴史的な建物や有名な食べ物など詳細な情報を逐一教えて頂きました。韓国と日本の違いとして、バスや水道代、電気代などは日本よりも韓国の方が安いことやなど、韓国では、暖房に加えて、床暖房もつけるので室内は日本に比べて温度調整が効くことなども教えて頂きました。



釜山で特に印象に残っているのは、甘川文化村（左にある写真）です。「星の王子さま」に関連する絵や像などがあちこちにみられて、非常に素敵な空間でした（下にある写真）。私は、元々「星の王子さま」を小説で読んだことがあります。好きなお話だったので、甘川文化村を散策するにつれてテンションが上がりました。また、

3日目以降は、大邱カトリック大学での研修でした。右にある写真は研修の様子を写したものです。到着してから大学生との交流もあり、徐々に時間をかけて仲を深めることが出来ました。交流会に参加していた大邱カトリック大学の学生さんのほとんどが日本に興味があることもあり、フレンドリーに話をなさってくれたので、普段より早く初対面にもかかわらず打ち解けることが出来ました。交流会に参加した経験を通して、私も見習って気さくに話を出会う人と話せる関係づくりをしていきたいと思いました。他にも、向上心が高く知識が豊富なと

ころや、コミュニケーションの取り方など、見習いたいと思う部分は多くあります。それらを見つけれただけでも海外研修に来た意味があると思えるほどでした。年齢問わずに仲良くしてい

る部分も素敵でした。

6日目は、大邱カトリック大学の学生に向けて常磐大学の学生が発表をしました。普段の常磐大学の看護学科の授業で行う発表より、なぜか気楽に行うことが出来ました。それはきっと、交流してきたカトリック大学の学生が親しみやすく場を盛り上げてくれるような方が多く、話に関心をもって聞いてくれるのではないかと感じる事が出来たからです。その結果、発表中に反応があって、発表側としてもやりやすくスムーズに実施することが出来ました。

3. 終わりに

今回の海外研修を通して、大邱カトリック大学の学生から学べる部分は多くありました。それは、知識などだけでなく、普段の、人とのコミュニケーションの仕方などから肌で感じる部分もありました。今回研修で関わった方たちとの縁を今後も大切にしていきたいと思います。改めて、色々な発見を通して海外研修を充実させることが出来て参加して良かったと感じます。



韓国研修

「多くの出会いと驚き」

看護学部看護学科 2 年

1. はじめに

私が、この韓国研修に参加した理由は二つあります。一つ目は、K-POP や韓国のドラマが好きで韓国に興味と関心があったため、この研修を通して実際に韓国で言葉や文化に触れたいと思ったからです。二つ目は、私は、まだ海外に行ったことがなく、大学の4年間の中で海外に行くことを挑戦したいと考えていました。そして、今回、韓国の研修があり、韓国の大学に行くことができると聞き、新しい出会いや、価値観を知ること、自身の成長に繋がると考え、参加しました。

そして、研修に参加するにあたり、目標を二つ設定しました。一つ目は、たくさんの人との積極的な交流を通し友達をつくること。二つ目は、韓国の文化に触れることを楽しみ、さまざまなことに挑戦することです。この二つの目標を軸に韓国研修に参加しました。

2. 多くの体験

研修初日、海外へ行くことが初めてな私にとって、飛行機からの景色も思い出に残っています。雲の上の空と雲の下の海の青がグラデーションになっていて、夢中で見ていました。

韓国に着いてからは、はじめに釜山へ行きました。釜山市内の見学では、釜山タワーにのぼり、ふ街の景色を一望することができました。また、海雲台という場所でみた海がエメラルドが入った青色をしていて、とても感動したのを覚えています。また、多くの人で賑わっている国際市場での買い物をしました。ここでは、一年生の時に履修した韓国語を使いながら現地の人と会話をし、屋台でトッポギやスンドを堪能しました。

次に、深い歴史を持つ慶州での国立博物館の見学や仏国寺、佛国寺の見学をしました。迫力ある建物や仏像がとても多くかったです。

そして、大邱カトリック大学がある大邱へ行きました。大学がとても大きく、特に図書館が最新の技術を取り入れた、充実した施設になっていました。大邱での現地の日本語学科の学生との交流では、多くの学生とコミュニケーションをとることができました。また、韓国語の授業を実際に受けたり、私たちが韓国の学生に向けて伝えたいことの発表を行いました。



最終日には、現地の学生と大邱市内を見学し、たくさん話をして日本と韓国、お互いの文化を知ったり、体験したりすることができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

このように、一週間の研修の中で様々な体験と出来事がありました。その中でも私が特に印象に残っていることや驚いたことについて書きます。

3. 出会いと驚き

私が特に印象に残っていることは、友達との出会いです。私はこの研修を通して目標にしていた友達をつくることができました。交流会で色々な人と会話をして、一緒に飯を食べに行ったりする中で、仲良くなることができました。友達と過ごす中で韓国での友情というのはとても強い結びなのだと感じました。また、韓国語を教えてもらったり、韓国での流行りを教えてもらったりするなど、韓国の文化に触れることや体験するという点において、友達の存在はとても大きかったです。そして、全然韓国語ができない私にとって、みんなともっとたくさん会話をしたいと強く思うようになり、韓国語への勉強の意欲が高くなりました。最終日は別れるのが寂しかったですが、また会うことを約束し、私にとって大切な友達と出会えることができ、とてもよい韓国研修になったと思っています。

研修で驚いたことは、食文化です。研修の中で本当に多くの韓国の食べ物を食べました。初めは、辛すぎて食べられるのか不安だったり、スンドェなど初めて見たり聞いたりした食べ物やに対しては、どんな味がドキドキしましたが、勇気を出して食べてみると、本当に美味しいものばかりで驚きました。食文化で気づいたことは、日本の味に近い食べ物があることや、いただきますなどの食前、食後の挨拶があること、また日本とは違って、銀色の箸と一緒にスプーンが必ず付いてくることや、箸とスプーンの置き方が日本は横向きなのに対し、韓国は縦向きにしていること、キムチをはじめとした複数のおかずが必ずついてきて、おかわりもできるという点や、咀嚼する際の音が美味しく食べているという表現の一つあることなどです。日本と近い文化もあれば、相違点もあり、驚きもありましたが、とても面白く、たくさんのお店で色々な韓国料理を食べることができたことで、より素敵な食

文化だと感じました。

4. 終わりに

1 週間の韓国研修は、毎日が新しいことの出会いや驚きで溢れており、とても刺激的な一週間でした。この研修を通しての目標は二つとも達成することができ、多く人との交流、新しい体験から多様な価値観を知ることができ、自分自身の成長に大きく繋がったと感じています。異文化に触れ、その地を自分で歩いてみることの大事さを実感することができました。今後は韓国語をはじめとした語学にも力を入れながら、研修を通して出会った友達や学びを大切に、心豊かな人間性をさらに育むことができるよう頑張っていきたいです。

